

「愛の勧め(1)」

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①1~8章が教理
- ②9~11章がイスラエルの救い
- ③12~16章が適用

(2) これまでに学んだ12章の内容

- ①献身の勧め(1~2節)
- ②謙遜の勧め(3~8節)
- ③アンケートの紹介

(3) きょうの箇所

- ①愛の勧め(1)(9~13節)
- ②13の勧めが記されている。
- ③前提を確認しておく。

*この勧めを未信者に語ることは、時には逆効果となる。

*信者の中には、古い性質と新しい性質があり、それが戦っている。

*この勧めを実行する力は、聖霊から来る。位置的真理の確認が重要である。

*動詞(分詞)の時制はすべて現在形である。継続した行為を指す。

2. アウトライン(13のポイントがある)

3. メッセージのゴール

- (1) 愛について考える。

このメッセージは、愛の勧告について学ぼうとするものである。

I. 愛には偽りがあってはなりません。

1. 翻訳の比較(9節)

「愛には偽りがあってはならない」(口語訳)

「愛には偽りがあってはなりません」(新改訳)

「愛には偽りがあってはなりません」(新共同訳)

2. この愛は、アガペイの愛である。

(1) この世の愛には、見かけだけのもの、毒を含んだものがある。

①信者もまた、そのような価値観に引き込まれる危険性がある。

(2) 劇的な対比を見よ。

①アガペイの愛は、善の集大成。

②偽りとは、偽善のこと。悪のしるしである。

③「仮面をかぶった愛の行為は不可能である」

(3) これがクリスチャン生活の基本原則であり、要である。

①これ以降の勧告は、その要から出てくるものである。

II. 悪を憎み、

1. 翻訳の比較 (9 節)

「悪は憎み退け、」(口語訳)

「悪を憎み、」(新改訳)

「悪を憎み、」(新共同訳)

2. 愛は具体的に表現される必要がある。

(1) 罪を憎むことは、その表現のひとつである。

①「憎む」は、忌み嫌う、ひどく嫌悪する、拒絶する。

②英語では、「abhor」である。

③「悪は憎み退け、」(口語訳)が一番良い。

④一例を上げると、テロ行為を見た時に示す反応である。

(2) 「この世(時代)」の価値観は私たちに麻痺させる。

①寛容は善であるという理由が、敵に利用されている。

②罪に対して敏感であれという勧告である。

III. 善に親しみなさい。

1. 翻訳の比較 (9 節)

「善には親しみ結び、」(口語訳)

「善に親しみなさい」(新改訳)

「善から離れず、」(新共同訳)

2. 善との関係を示すギリシア語は、「コラオウ」である。

(1) 1コリ6:16

「遊女と交われば、一つからだになることを知らないのですか。『ふたりは一体となる』
とされているからです」

①「交わる」は「コラオウ」である。

②男女の親密な関係を指す。

(2) 継続した行為である。

①みことばは、何が善であるかを私たちに教えている。

②日々の知識の更新が必要である。

IV. 兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、

1. 翻訳の比較 (10節)

「兄弟の愛をもって互にいつくしみ、」(口語訳)

「兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、」(新改訳)

「兄弟愛をもって互いに愛し、」(新共同訳)

2. 愛に関する2つの言葉が出てくる。

(1) ともに「フィロス」が付く。

①フィラデルフィア(兄弟愛)

②フィロストルゴス(親子愛)

(2) 兄弟姉妹への愛が、未信者への愛よりも優先される。

①ガラ6:10

「ですから、私たちは、機会のあるたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに善を行いましょう」

V. 尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。

1. 翻訳の比較 (10節)

「進んで互に尊敬し合いなさい」(口語訳)

「尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい」(新改訳)

「尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい」(新共同訳)

2. ピリ 2:3

「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい」

(1) エゴホリック(自己中心性)が、教会内の争いの原因となる。

①相手の内に、キリストを見る。

②相手に対する敬愛と、相手は自分よりも優れているという認識。

VI. 勤勉で怠らず、

1. 翻訳の比較(11節)

「熱心で、うむことなく、」(口語訳)

「勤勉で怠らず、」(新改訳)

「怠らず励み、」(新共同訳)

2. コロ 3:23

「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心からしなさい」

(1) 全身全霊を込めてそれをしなさい。

(例話) 煙草を吸おうとしたカーペット職人の話

(2) 信者の動機付けは、「主に対してするように」である。

VII. 霊想に燃え、

1. 翻訳の比較(11節)

「霊に燃え、」(口語訳)

「霊に燃え、」(新改訳)

「霊に燃えて、」(新共同訳)

2. 「霊において燃え」のことである。

(1) 「霊」とは、人間の霊である。

①英語では、「on fire with the Spirit」である。

(2) 2つの注意点がある。

①聖霊の満たしによってこれが可能となる。聖霊の支配。

②知識のない熱心は、危険である。

「私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません」(10:2)

VIII. 主に仕えなさい。

1. 翻訳の比較 (11 節)

「主に仕え、」(口語訳)

「主に仕えなさい」新改訳

「主に仕えなさい」(新共同訳)

2. ギリシア語の動詞は、「デューリユーオウ」である。

(1) 自発的なしもべとして仕える。

(2) 主に仕えるとは、みからだなる教会に仕えること。

①御霊の賜物をもって仕える。

IX. 望みを抱いて喜び、

1. 翻訳の比較 (12 節)

「望みをいだいて喜び、」(口語訳)

「望みを抱いて喜び、」(新改訳)

「希望をもって喜び、」(新共同訳)

2. 希望(エルピス)とは、単なる願いではない。

(1) 確信に満ちた信頼のことである。

(2) 終末的未来に手を伸ばすことである。

3. 1ペテ 1:3

「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、

私たちが新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました」

X. 患難に耐え、

1. 翻訳の比較 (12 節)

「患難に耐え、」(口語訳)

「患難に耐え、」(新改訳)

「苦難を耐え忍び、」(新共同訳)

2. 希望と忍耐の関係

(1) ロマ 5:3~4

「そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです」

(2) 人生は、患難に満ちている。

① 想定外のことだと言うべきではない。

② 終末的希望があれば、患難に耐えることができる。

XI. 絶えず祈りに励みなさい。

1. 翻訳の比較 (12 節)

「常に祈りなさい」(口語訳)

「絶えず祈りに励みなさい」(新改訳)

「たゆまず祈りなさい」(新共同訳)

2. 祈りは、患難に耐えるための力となる。

(1) 祈りが困難な理由は、サタンが私たちが神から切り離そうとしているから。

XII. 聖徒の入用に協力し、

1. 翻訳の比較 (13 節)

「貧しい聖徒を助け、」(口語訳)

「聖徒の入用に協力し、」(新改訳)

「聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、」(新共同訳)

2. 優先順位は、信者、そして教会外の人たちである。
 - (1) 初代教会では、経済的困窮者が多かった。

XIII. 旅人をもてなしなさい。

1. 聖句の比較 (13節)

「努めて旅人をもてなしなさい」(口語訳)

「旅人をもてなしなさい」(新改訳)

「旅人をもてなすよう努めなさい」(新共同訳)

2. 時代の要請

- (1) 宿は少なく、また、安心できない場合が多かった。
- (2) 旅する伝道者、聖徒たちが多くいた。

3. 2つのギリシア語

(1) 「もてなし」は、ギリシア語で「フィロクセニア」。

①これは、「見知らぬ人への愛」という意味である。

(2) 「努めなさい」は、ギリシア語で「ディオウコウ」。

①これは、「追いかける」、「追及する」という意味である。

②機会を待つのではなく、こちらから積極的にその機会を追求する。

結論

1. 愛こそがクリスチャン生活の基本原則であり、要である。
 - (1) ここでの12の勧告は、最初の勧告である愛から出てくるものである。

(例話) 樋野興夫先生 2011年10月31日のブログ

昨日は大学での解剖慰霊祭であった。病理解剖は「医学の真髄の学び」と「医療人としての人格養成」の原点である。筆者は実行委員長として「閉会の辞」を述べる機会が与えられた。若き日から病理解剖に従事し「人生の悲しみ・むなしさ」の体験は、人生の目的は、お金でも地位でもなく「人生の目的は品性の完成なり」の学びの「厳しい修練の場」であった。

2. この聖書箇所は、1 コリ 13 章と似ている。

「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます」(1 コリ 13：4～7)